

公表 事業所における自己評価総括表

| | | | |
|---------------|-----------------------|--------|--------------|
| 事業所名 | 児童デイサービス さんこま(児童発達支援) | | |
| 保護者評価実施期間 | 2025年2月3日 | | ～ 2025年3月17日 |
| 保護者評価有効回答数 | (対象者数) 6 | (回答者数) | 5 |
| 従業者評価実施期間 | 2025年2月17日 | | ～ 2025年3月2日 |
| 従業者評価有効回答数 | (対象者数) 5 | (回答者数) | 5 |
| 事業者向け自己評価表作成日 | 2025年3月24日 | | |

分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 馬と触れ合うことで芽生える基本的信頼感 馬と接することで、未就学の子どもが「安心」「信頼」の土台を築く体験ができている。 | 馬のお世話を滑動に取り入れることで、子ども達自身の居場所の感覚を育む。自己有用感を養うことから安心・信頼の土台としている。 | 関係の積み重ねを記録し、言葉以外の反応(視線、呼吸、動きなど)を丁寧に振り返る方法をスタッフ間で育てていく。 |
| 2 | 非言語的・感覚的なやりとりの力を引き出す環境 言葉だけに頼らず、感覚や身体でのコミュニケーションが自然に行われる環境が整っている。 | 触覚・前庭感覚・固有受容感覚を意識した遊びや活動を、遊びの中に織り交ぜて取り入れている。 | 子どもごとの感覚特性をアセスメントし、個別の好みや不快感に配慮した活動設計をすすめていく。 |
| 3 | ゆったりとした時間と空間の流れ 慌ただしいスケジュールが少なく、子どもが自分のペースで関われるゆとりがある。 | 導入・切り替え・終了の場面に緩やかな移行時間を設け、不安を抱きやすい子にも対応。 | その子の特性に合わせてながら、日々のルーティンや空間構造に、視覚的支持(写真やマーク)やスケジュール表の提示などを加え、見通しの安心感を高めていく。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 個別の支援計画と実際の活動がつながりにくい 柔軟な日常支援が中心であるため、支援計画に記載された内容と活動の実際が対応しにくい場面がある。 | 支援者同士の対話を通じて「その子にとって今必要なこと」を共有しているが、文書としての整合性に課題 | 支援記録とアセスメントを定期的に振り返り、計画の「言葉」と現場の「実感」を結びつける試みを強化する。 |
| 2 | 集団適応や就学準備の観点が不足しがち 個の成長には丁寧に寄り添えているが、集団場面や就学後を見越した視点が意識されにくい傾向がある。 | 自然な関わりの中で他者との接点を体験できるが、明確な“集団活動”は少ない。 | 簡単なルールゲームや順番のある遊びを取り入れ、楽しみながら集団適応の力も育てられる活動を意図的に設計する。 |
| 3 | 早期支援の社会的意義の発信が不足 「児童デイサービス さんこま」のような自然体験型の未就学支援の意義が、地域や関係機関に十分に伝わっていない。 | 保護者や一部関係者には理解を得ているが、行政・医療・園との広報や連携は限定的。 | 事例紹介や公開イベント、見学会・体験会などを通じて、「児童デイサービス さんこま」の児発支援の価値を広く伝える機会をつくる。 |